

第4回常磐公園植栽計画市民ワークショップ傍聴者意見

2015.01.28

・傍聴者1

- ① 生き物は、移動するのでゾーニングの考えは改めるべきだ
- ② 樹木の移植のときは公園内にすべきである
- ③ 表土の移動のときは公園内にすべきである
- ④ 植栽は、針広混合林にすべきである

・傍聴者2

旭川市の中心部にある常磐公園に実に多くの鳥類が調査によって確認されました。多くの予算を使い実施した生態系調査の結果が活かされた公園作りを願っています。話し合う中でゾーン化をやめたことは賛成です。移植を成功させること、表土を盛り土にして欲しい、市は危険木という木を鳥が子育てで利用していること、子どもたちに知らせていく学びの場です。自然の形を残して欲しい、立ち入らない、見守る木として方法はいくらかでもあるはずです。急がず話し合いを重ねて欲しいです。

・傍聴者3

- ① 盛り土は表土を使っていたきたい。(すでにそうするという話はあったので)
- ② 百年かけて育て・・・常磐公園はすでに百年の歴史を持っています。その百年の歴史を次の百年にどうつなぐかという論点が主とならなければならないと思う。
- ③ 人はが歩くところと、樹木を守ることから人が踏み入らないところとを何らかの方法をとって区別する。その際、下草が育って昆虫が育つ環境を考えていく。
- ④ 花壇は今あるところでもいいのでは！！管理が大変なのは！！
- ⑤ 植栽場所だけの検討だったが、園内の樹木の後継木を植えることも考える必要がある。緑の豊かさは園全体をイメージする必要があるし、旭川市には点在する緑があるので、それをつなぐイメージを持つことが大切なのではないか。
- ⑥ ゾーン分けが修正されたのはよかった。園全体のイメージが大切だと思うし今までの常磐公園の歴史の中で大切にされてきた環境をさらに充実するように考えるべきでは。(全体で考える→全体のイメージ→植栽場所の樹木を検討する)